

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	特定非営利活動法人 介護支援ネットワーク	代表者	理事長 高木 規久子	法人 事業所 の特徴	事業所敷地隣接に庭園があり、四季折々の花が咲きます。利用者の個々の身体的状況、家族状況、住まいや地域状況を考慮し、通い・訪問・宿泊の3つのサービスを組み合わせ、支援をしています。できる限り自宅に居ると同じような環境で過ごして頂けるよう取り組んでいます。「共生」を法人の理念として、「利用者、職員、家族、地域と共に生きる」事業所を目指しています。
事業所名	夢の元気村	管理者	徳田 勝弘		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	人	人	人	1人	人	1人	1人	4人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	月に1回の会議で自己の仕事について振り返りを行い、発言する。	会議の回数を増やし発言する機会を増やしました。発言も増えてきている。	コロナで出来ていないことが多かった。	地域資源の見直しと新たな地域資源の発見をする。
B. 事業所のしつらえ・環境	普段の清掃や気付いた時に速やかに掃除をする事で衛生を保つ。	感染症対策の為に清掃はしっかりしていました。	コロナで事業所を確認することができないためわかりません。	殺菌、消毒の徹底をし感染予防対策をしっかりする。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の社会資源についての最新情報を得る事で柔軟な介護ができる。	コロナの為に地域との関わりが持てなかった。	地域資源の把握をもっと行って活用して欲しい。	地域資源を活かして研修等を行い地域との繋がりを深くする。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	これまでの本人の暮らしや地域での役割等を聞き取る事で本人らしい生活を理解する。	初回面談時に聞き取り調査をあつくして利用者の情報を集めるようにしました。	事業所自己評価を確認し積極的に取り組んでいることを感じる事ができた。	利用者が望む生活ができるように地域資源を利用した支援体制を考える。
E. 運営推進会議を活かした取組み	感染対策で会議を開催するリスクがある為、計画はなしとします。	計画なしの為、結果もありません。	コロナも落ち着いてきたのでこれからは地域の関わり等で運営推進会議を活かしてほしい。	運営推進会議を通じての地域との関わりを考える。
F. 事業所の防災・災害対策	年2回の消防避難訓練、年1回の土砂災害避難訓練を実施する。	消防訓練がなかなかスムーズに行うことが出来なかった。	コロナで難しい部分もあったと思いますが実行するようにしてください。	年2回の消防避難訓練、年1回の土砂災害避難訓練を実施する。

